

【ミッションステートメント】「いっしょに歩こう！プロジェクト」～日本聖公会東日本大震災被災者支援

- ① わたしたちは、東日本大震災により困難を負って生きる人々に敬意を払っていっしょに歩きます。
- ② わたしたちは、被災地の方々の生活と地域の再創造に向けていっしょに歩きます。
- ③ わたしたちは、主イエス・キリストが、共に歩いてくださることに励まされていっしょに歩きます。

【3月11日を迎えて】

大震災より1年の日を迎えます。私達は、この日を、痛みと悲しみの内に覚える方々を覚え、主日を過ごしたいと思えます。

当日、植松主教は、日本聖公会首座主教として東北教区の加藤主教と共に、福島県新地町の磯山聖ヨハネ教会での聖餐式において奉仕されます。1周年記念礼拝の会場として選ばれている磯山聖ヨハネ教会は、3人の信徒が津波の犠牲となられ、礼拝堂も大きなダメージを受け倒壊の危険の中にあり、教会前庭にテントを張っての礼拝となります。また、午後2時20分からは、仙台基督教会・主教座聖堂（ビンステッド記念ホール）に会場を移し加藤主教の司式により、（午後2時46分の黙祷を中心に）、祈りの時が持たれます。

また、釜石神愛教会では、東北教区よりこの日のために派遣された李贊熙（イ・チャンヒ）司祭と、釜石滞在中の広谷和文司祭（聖公会神学院校長）の司式と、現在釜石で春季実習中の永谷亮聖職候補生の奉仕により記念の聖餐式が捧げられます。

日本聖公会は、震災1年にあたるこの日、各教会において「東日本大震災1周年記念特祷」を捧げると共に、主教会メッセージの朗読を聴き、主日礼拝の中でこの日を記念いたします。また、午後2時46分（地震発生時刻）に1分間の黙祷を捧げる事が求められています。

また、被災者と支援の働きを覚え、下記の祈りを、引き続き日々の生活の中でお捧げ下さるようお願い致します。

東日本大震災の祈り（東日本大震災のための祈り）

苦しみ悩みのうちにある人々を常に支えてくださる主よ、東日本大震災のすべての逝去者と被災者を覚えて祈ります。

大震災によって世を去ったすべての人（ことに ）が、慈しみ深い主のみ腕に抱かれ、憩うことができますように。

また、地震と津波、放射能汚染により、愛する人を失い悲しみと孤独のうちにある人々、離散させられた人々、今もなお弱い立場におかれている多くの人びと（ことに ）を、その傍らに立ってお支えください。

そして震災復興のためのすべての働きが、痛みの多いこの地上に希望をもたらすものとなりますように。

慰めの主よ、わたしたちがこれらのことを覚え続け、困難を負って生きる人々と共に、主のみ跡に従って歩むことができますように、この祈りを主イエス・キリストのみ名によってお願いいたします。 **アーメン**

【リベリナ教区で洪水被害】

北海道教区と親しい交わりの中にありますオーストラリア聖公会リベリナ教区が、洪水被害に見舞われています。現地の熊坂司祭様よりいただいた情報をもとに現在の状況を、お知らせいたします。

『現地では、1週間にわたり降り続いた雨の為に、河川、灌漑用水路等が広範囲に渡って氾濫し、11の町に避難勧告が出され、グリフィスに避難所が開設されています。また、主要道路が冠水のため閉鎖されて互いの行き来が妨げられています。リベリナ教区に属する多くの教会も被災し、聖ジョージ教会（イェンダ）、聖ペテロ教会（ロック、一昨年に続いて2度目）聖エイダン教会（ロックハート）、聖フィリップ教会（ユラナ）、聖カスパート教会（ユーロンクインティ）の5教会が、床上浸水しました。リベリナ教区内の3つの「アングリケア」（聖公会の災害復興支援チーム）が、支援活動あたる中「アングリケア シドニー」にも派遣が要請されています。現在も、ナランダラでマリンビッジー川の水位が急速に上がり、危険な状態になっています。又、グリフィスですが、水が川から逆流する可能性があり、予断を許せない状況です。』

リベリナ教区からは、東日本大震災に対して、昨年は、募金の他、釜石へボランティアとして 派遣いただくと共に、クリスマスには釜石の子供たちに手編みの帽子・マフラー2000組をお送りいただく等、温かい支援をいただきました。私達も、同教区の被災信徒と教会、そしてすべての被災者とその中で奉仕されているアングリケアの働きに思いを寄せ、祈りましょう。

【越山さんご一家をお迎えして】

2月27日～3月8日の10日間、北海道教区と縁の深い、越山泉姉（郡山聖ペテロ聖パウロ教会信徒・越山健蔵司祭のお連れ合い）と、越山香奈子さん（若松諸聖徒教会信徒・越山哲也司祭のお連れ合い）と、お子さんの碧（あおい）ちゃん3歳のご家族を、札幌にお招きしました。ご家族は、放射線量の高い地域の中であって一年間、被災者と共に、また支援の働きの方々に教会に迎え、緊張の続く日々を過ぎて来られましたので、リフレッシュいただくとの願いから企画されました。

今回の招待プログラムは、越山健造司祭（札幌キリスト教会出身）と泉さん（深川聖三一教会・聖マーガレット館出身）お二人の友人の有志（世話人代表：塩谷常吉司祭）のご努力により実現しました。碧ちゃんは、ミカエル幼稚園のプログラムに参加させていただくなど、普段必ず身に着けている放射線から身を守るためのマスクを外して、思いっきり遊ぶ事ができました。春以降にも再度、お迎えしたいとの事。

【第三次青年ボランティア 募集終了】

2月15日発行の号外でお知らせした「第三次釜石青年ボランティア」ですが、現時点でお話をいただいている方を除き、募集を終了いたします。震災支援室では今後も、多くの方に釜石にボランティアに行っていただくため、なるべく早く4月以降のツアーや、青年ボランティア募集をしたいと思っております。どうぞよろしく願います。

【十三浜わかめ収穫ボランティア】

現在、いっしょに歩こう！プロジェクト・仙台圏ベースでは支援活動の一環として、宮城県石巻市にある大指漁港でのわかめの収穫ボランティアを募集しています。2月27日より始まっており、第1回の行程には、旭川聖マルコ教会の青年・齋藤晃さんが参加されました。4月26日の行程終了まで、参加募集を随時行っています。各行程1～2名の募集です。現時点で、まだ空きのある行程がございます。作業としては、収穫したわかめを、製品にするための工程をお手伝いするというものです。詳しくは北海道教区震災支援室までお問い合わせください。また、釜石でのボランティア活動に準じた交通費の援助もございます。やりがいのある仕事です。日程と募集人数は、いっしょに歩こう！プロジェクトのホームページに掲載されています。どうぞよろしく願います。

【毛糸について・緊急】

先日の支援室ニュースでお知らせしました、毛糸の支援のお願いについてですが、しばらくストップしてください。釜石支援センターのバックヤードに収納する限界が来ています。この先、またお願いすることになりますので、現時点での送付はストップして下さるようお願いいたします。

【北海道教区 震災支援中間報告】

震災から一年を経過しましたが、日本聖公会「いっしょに歩こうプロジェクト」の働きは、更に一年続きます。北海道教区の働きも、同じくあと一年間継続されます。皆様には、今後とも粘り強い祈りとご協力をいただきたく、北海道教区震災支援室では「中間報告」と「ボランティアハンドブック」を編集中です。4月1日（日）には、皆さんの手に届くよう作業を進めています。

【いっしょに歩こう！プロジェクト】

「いっしょに歩こう！プロジェクト」の活動の様子は、月一度発行予定の「ニュースレター」や、「いっしょに歩こうプロジェクト！」ホームページ<http://nssk.org/walk>で、ご覧いただけます。

【支援室の活動】

インターネットで支援室ブログが見られます。毎日の釜石ベースの活動もアップされます。<http://nsskhokkaido.blog89.fc2.com> 又は、「日本聖公会北海道教区ホームページ」→「東日本大震災」→「震災支援室ブログ」の手順でご覧下さい。

【震災支援室より】

- ◎ 支援室ニュースは、各教会において掲示下さると共に、増刷して配布ください。支援室ニュースのバックナンバーは、日本聖公会北海道教区のホームページにでも見る事ができます。
- ◎ 教会や個人での取り組みについても、お知らせください。他の教会の活動の参考になります。

【連絡・問合せ先】 電話：011-561-0451、ファクス：011-736-8377

Eメールアドレス：saigai@nssk-hokkaido.jp

【釜石ベース】〒026-0031 釜石市鈴子町5-4 「聖公会 釜石被災者支援センター」

☎0193-55-4524、090-6999-7840

Eメールアドレス：nssk311@yahoo.co.jp